

知的財産権概論 第6回

**特許を受けられる発明とは
(その1) ?**

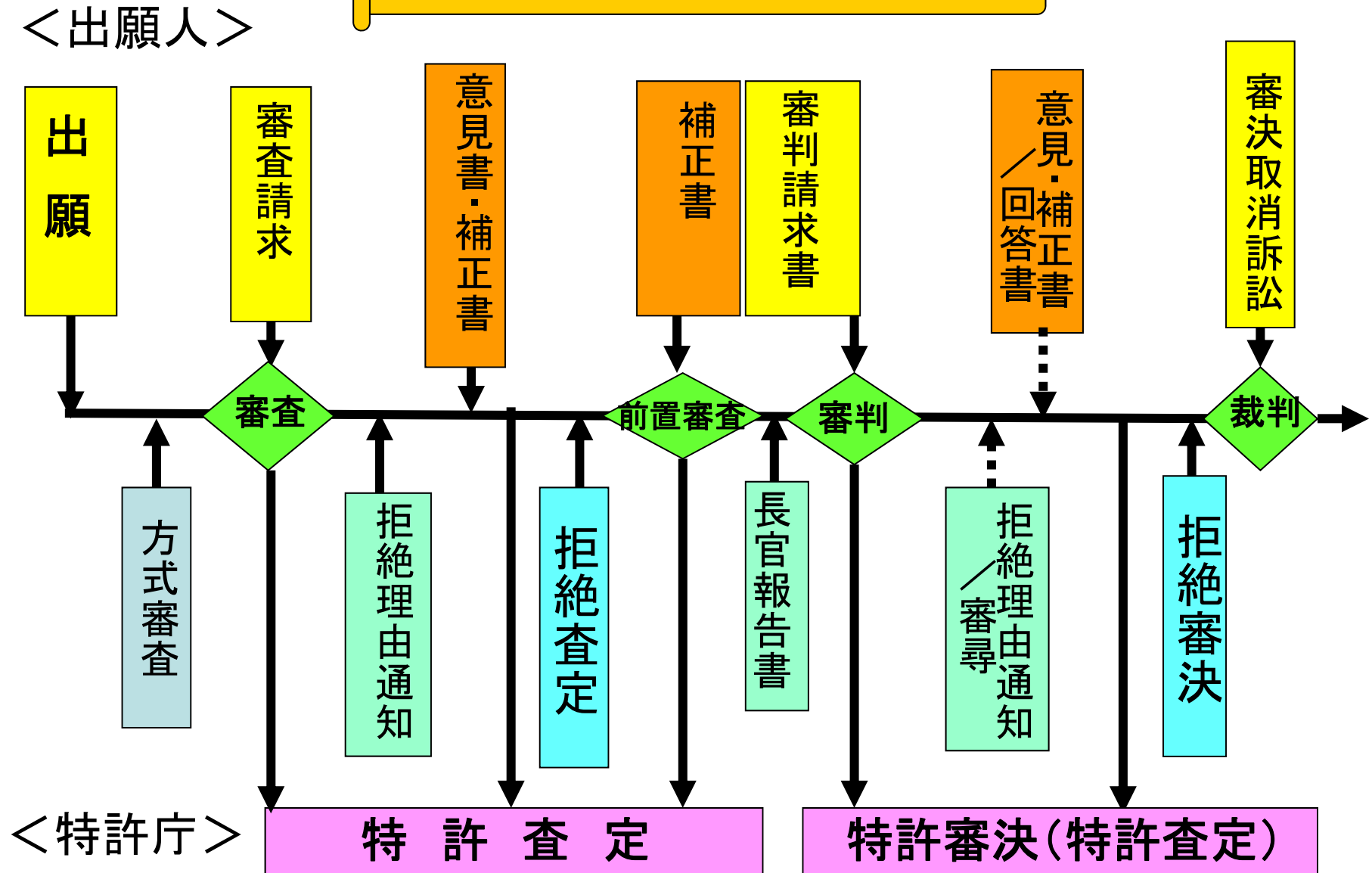
たくみ特許事務所

弁理士 佐伯 裕子

特許を受けられる発明－ 1

1. 特許を受けられる発明と
拒絶理由通知
2. 新規性とは
3. 進歩性とは
4. 新規性の例外規定
5. 先願であること

審査と審判の審理の流れ



特許を受けられる発明 ↔ 拒絶理由

- ① 特許法上の発明・産業上利用できる発明
(§ 2) § 29-1 柱書
- ② 発明の単一性
§ 37
- ③ 新規性
§ 29-1-1, 2, 3
- ④ 進歩性
§ 29-2
- ⑤ 先の出願がない (先願主義)
§ 39 § 29の2
- ⑥ 明細書の記載要件に不備がない
§ 36-4-1, 6-1, 2

新規性違反とは？

1. § 29-1-1, 29-1-2 (公知・公用)

商品の発表、博覧会への出品、販売
秘密保持義務のない人への開示
学会、講演会などでの口頭での発表

2. § 29-1-3 (刊行物)

刊行物への論文発表

講演要旨集

インターネットによる発表

Webに掲載

最先公開日
に注意

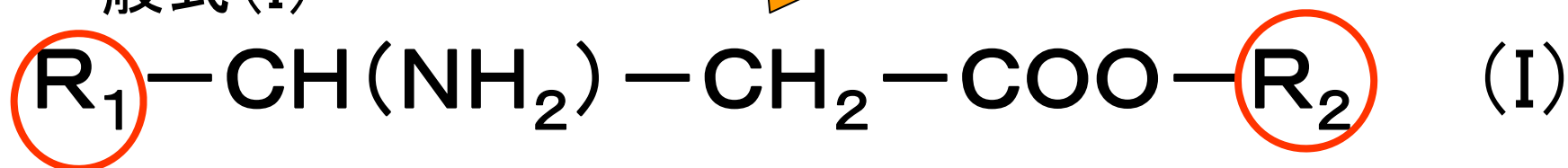
自分の文献も
公知文献

化学物質の新規性

一般式中のRの
定義に注意！

【請求項1】

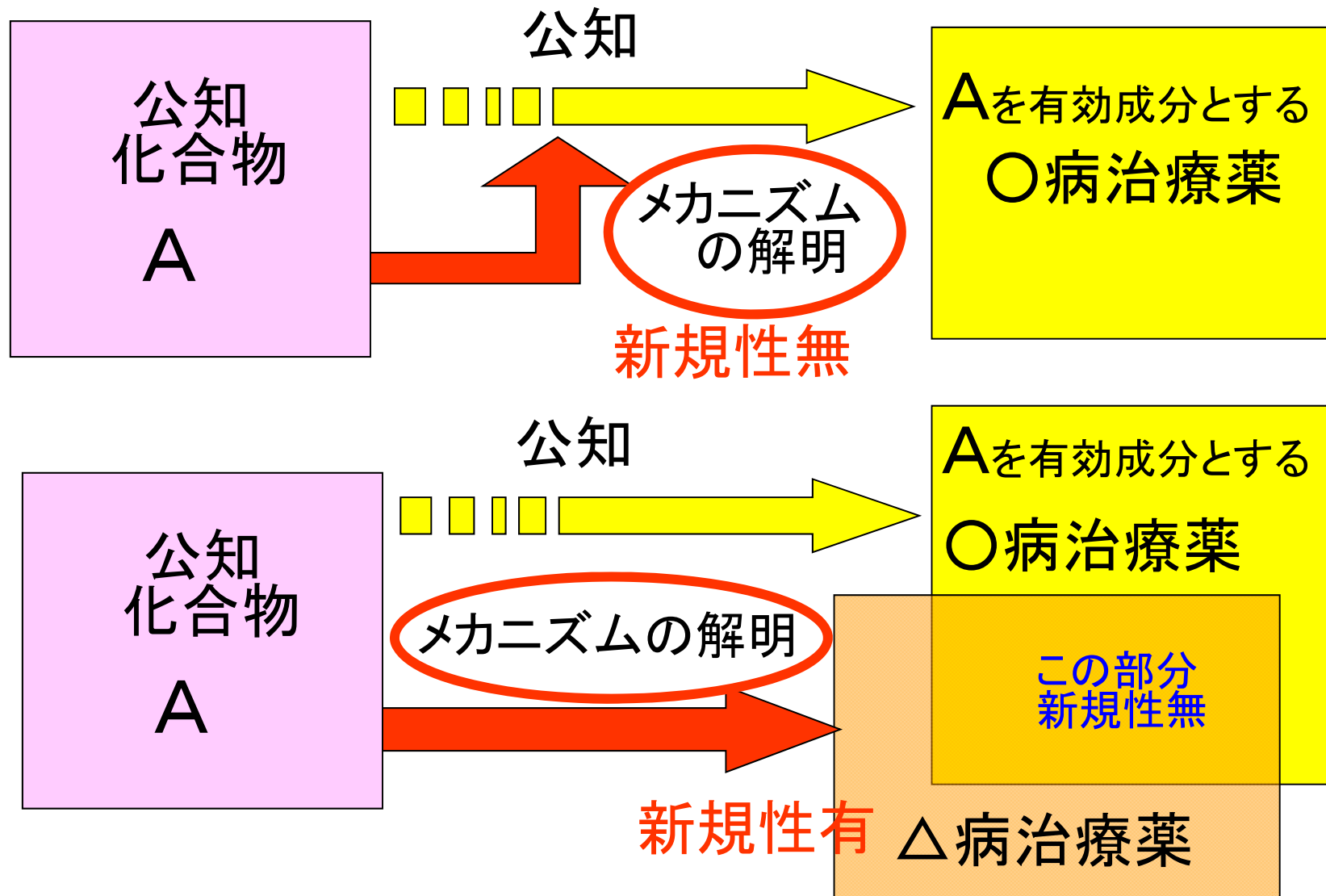
一般式(I)



(式中、 $\textcircled{\text{R}}_1$ は、炭素数1～10のアルキル基若しくは炭素数1～10のアルコキシ基で置換されたフェニル基、又はナフチル基を示し、 $\textcircled{\text{R}}_2$ は、炭素数1～10のアルキル基又はフェニル基を示す。)

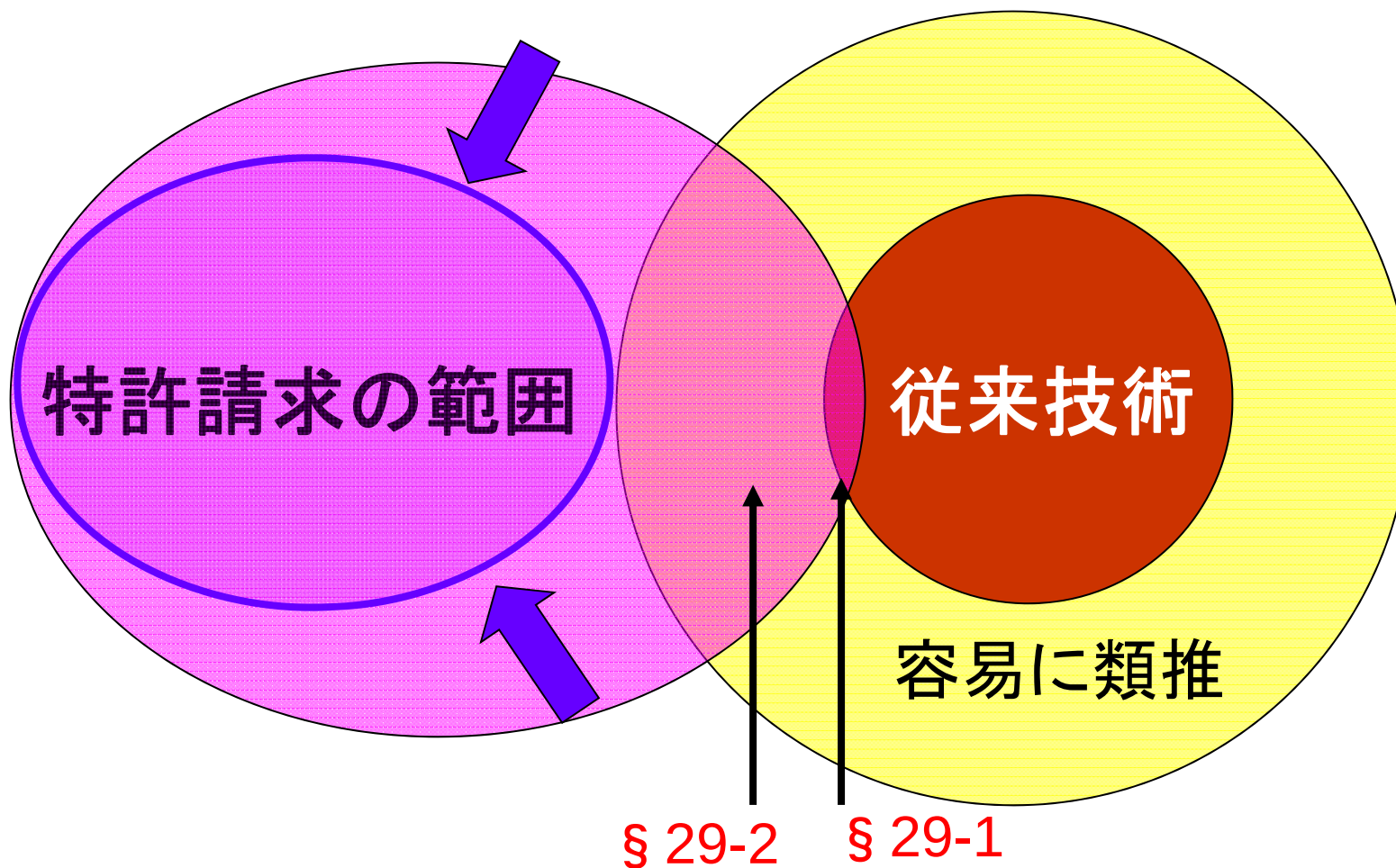
で表される芳香脂肪族カルボン酸又はその塩。

医薬用途発明の新規性

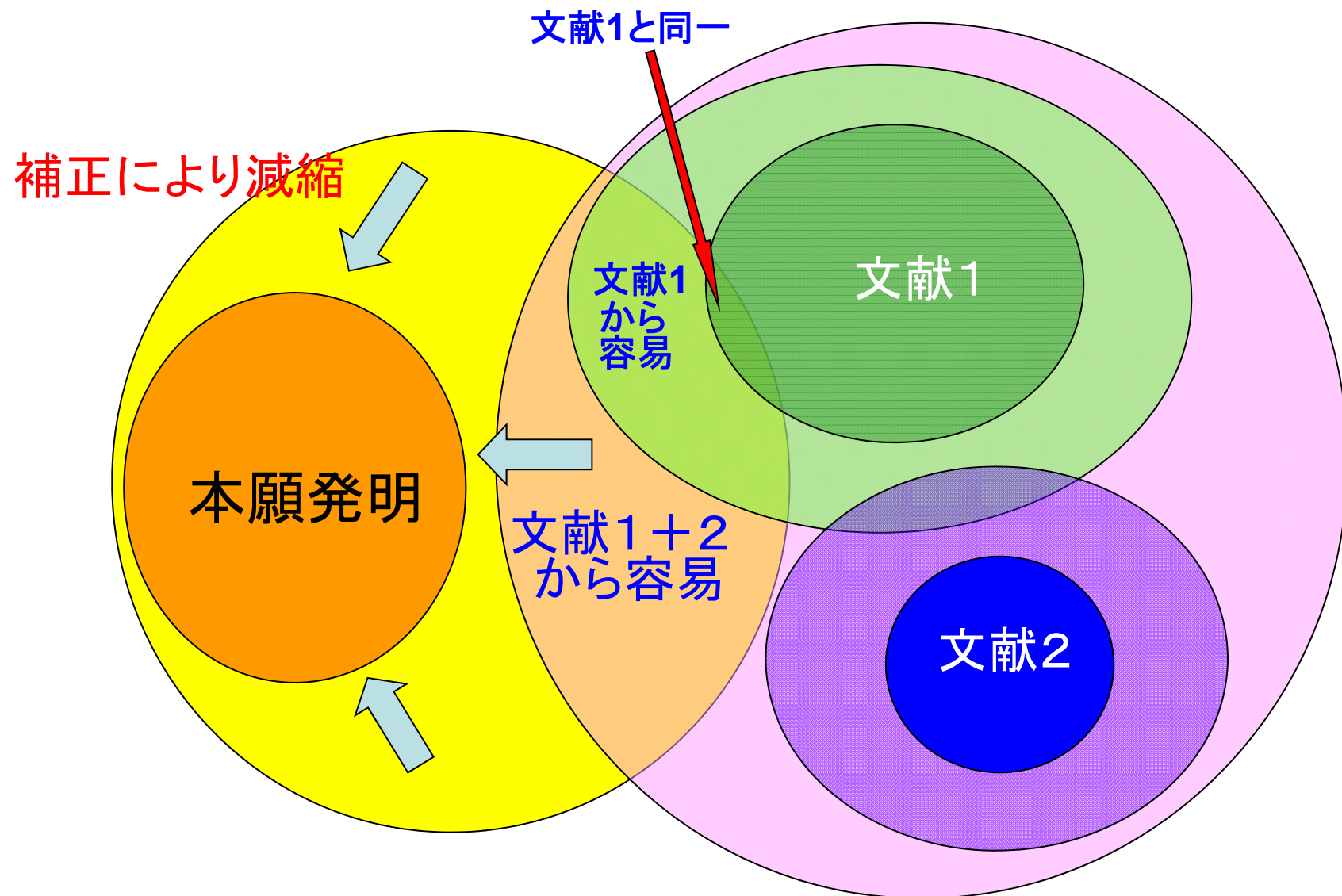


特許請求の範囲と従来技術

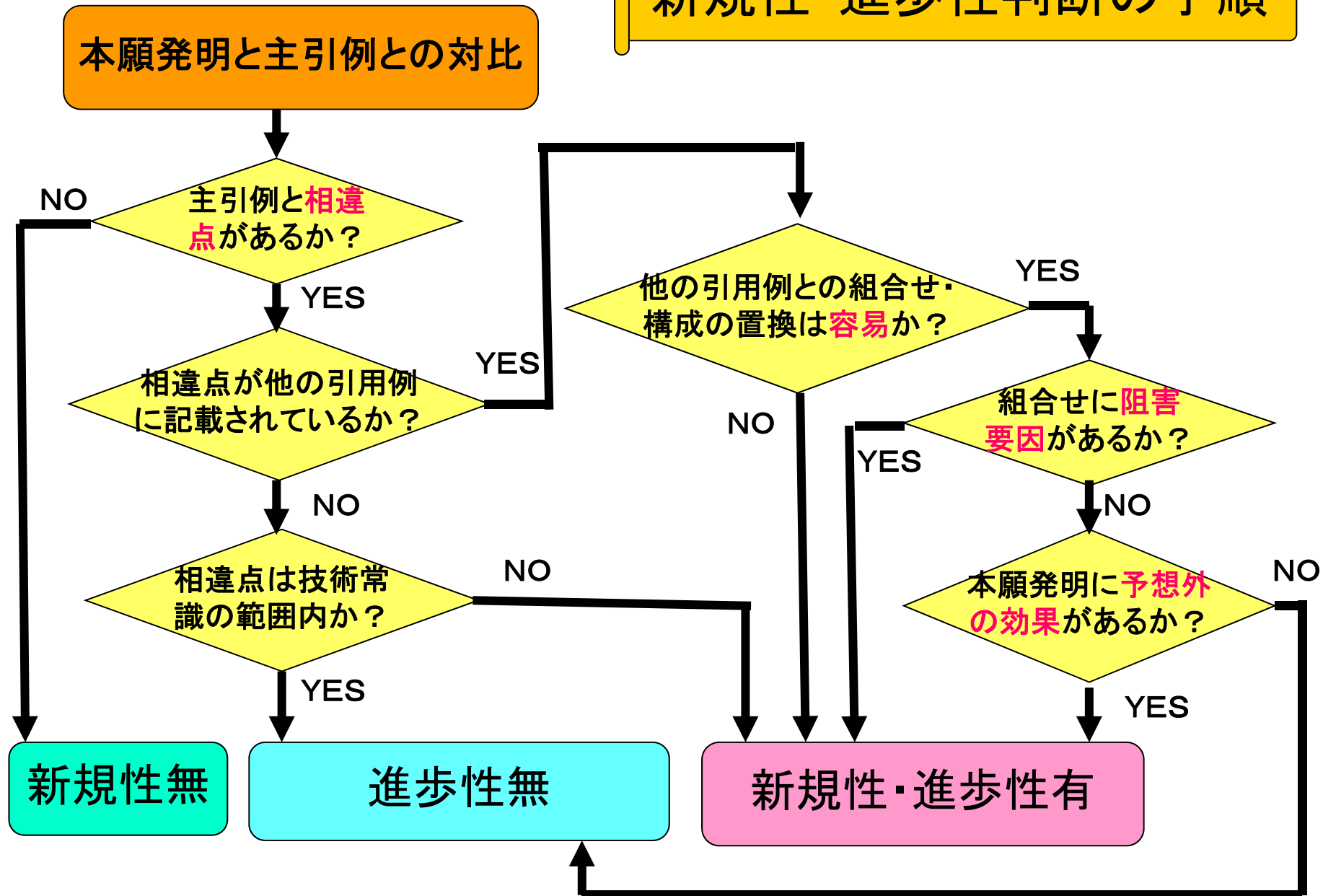
従来技術とその広がり＝新規性・進歩性違反



新規性と進歩性



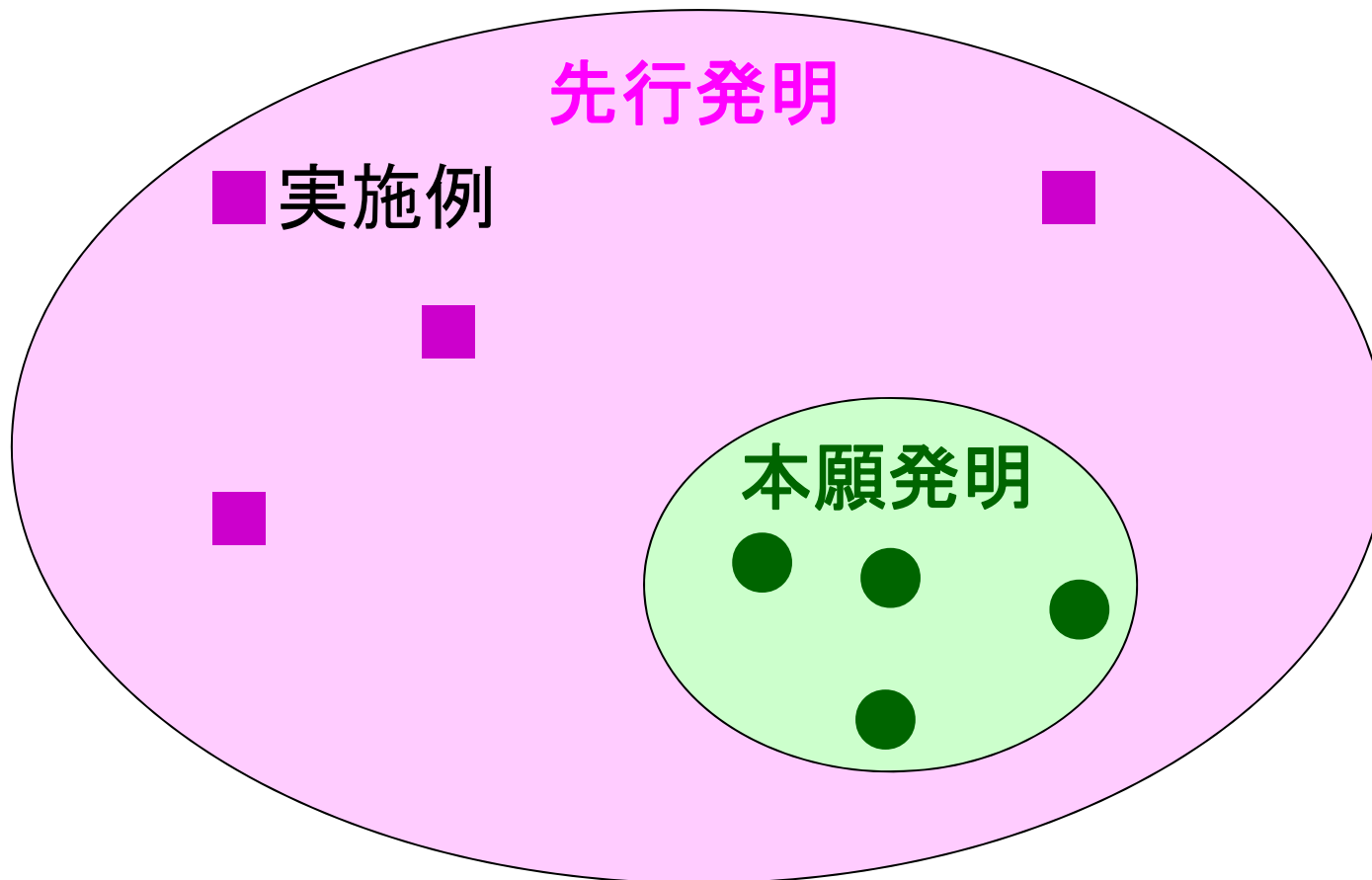
新規性・進歩性判断の手順



選択発明とは

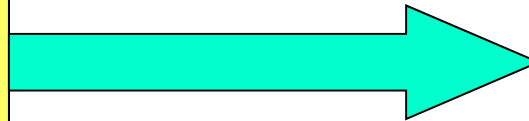
本願発明の効果 >> 先行発明の効果 (量的に顕著な差)

本願発明の効果 ≠ 先行発明の効果 (質的な差)



新規性の喪失の例外(特許法第30条)

公開していない



通常出願

論文発表
学会発表
販売・展示
記者会見

6か月以内



§ 30-2

出願

30日以内



§ 30-2申請
出願と同時
(願書に記載)

証明書
の提出

意に反した公開

6か月以内



§ 30-1 出願

(後で主張可能)

新規性喪失の例外

学会発表
2014.5.1

出願期限
2014.11.1

6か月

発表

A

新規性 ○
進歩性 ○

新規性 ×
進歩性 ×

出願

2014.9.15

30条適用出願

A or A'

出願

2014.11.2

特許法30条の落とし穴

注意！

- 出願日の遡及ではない
(第3者の発表、出願に対抗できない)
- 出願時に主張しなくてはならない
- 公開日の算定に注意
(学会発表の要旨集、Web公開)
- 日本独自の制度
(除米国／欧州、諸外国にはない。)



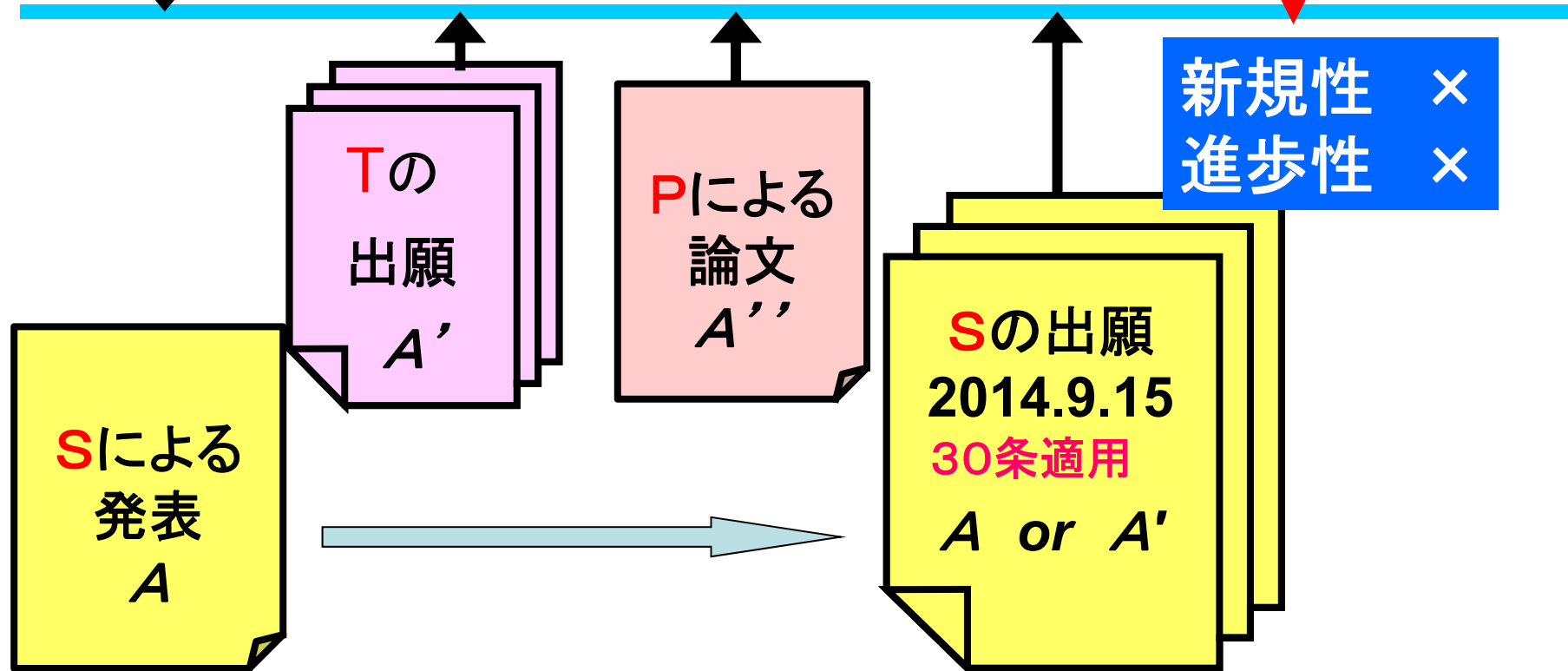
PCT出願

Sの
学会発表
2014.5.1

特許法30条の注意点

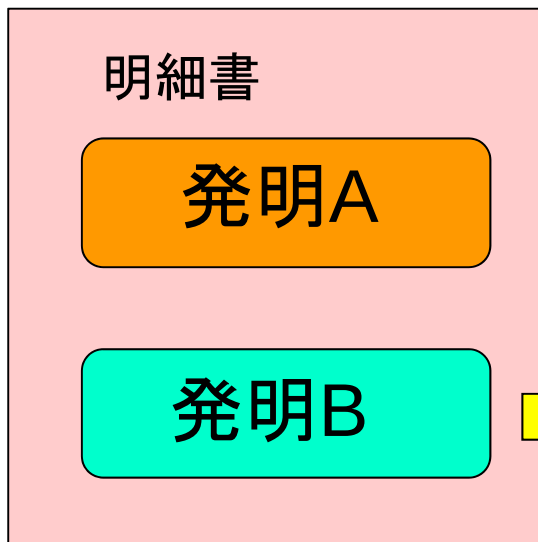
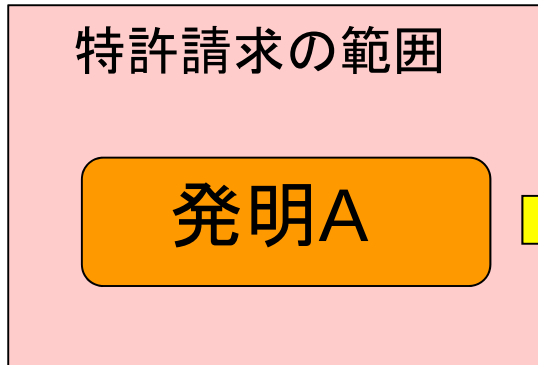
出願期限
2014.11.1

6か月

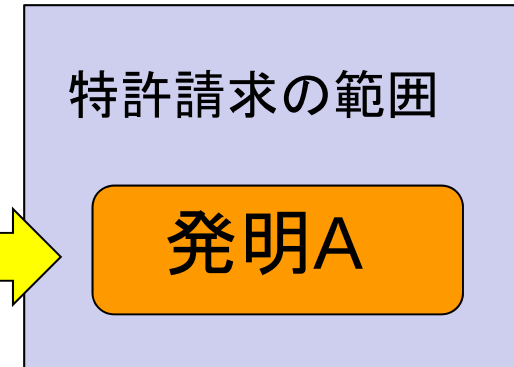


先の出願の後願に対する権利

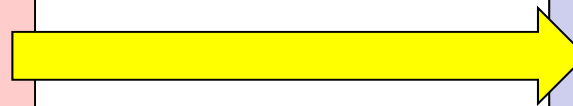
先願



後願1

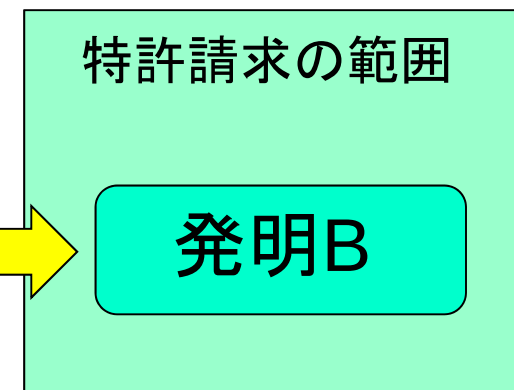


§ 39-1 違反

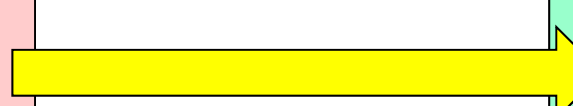


後願2

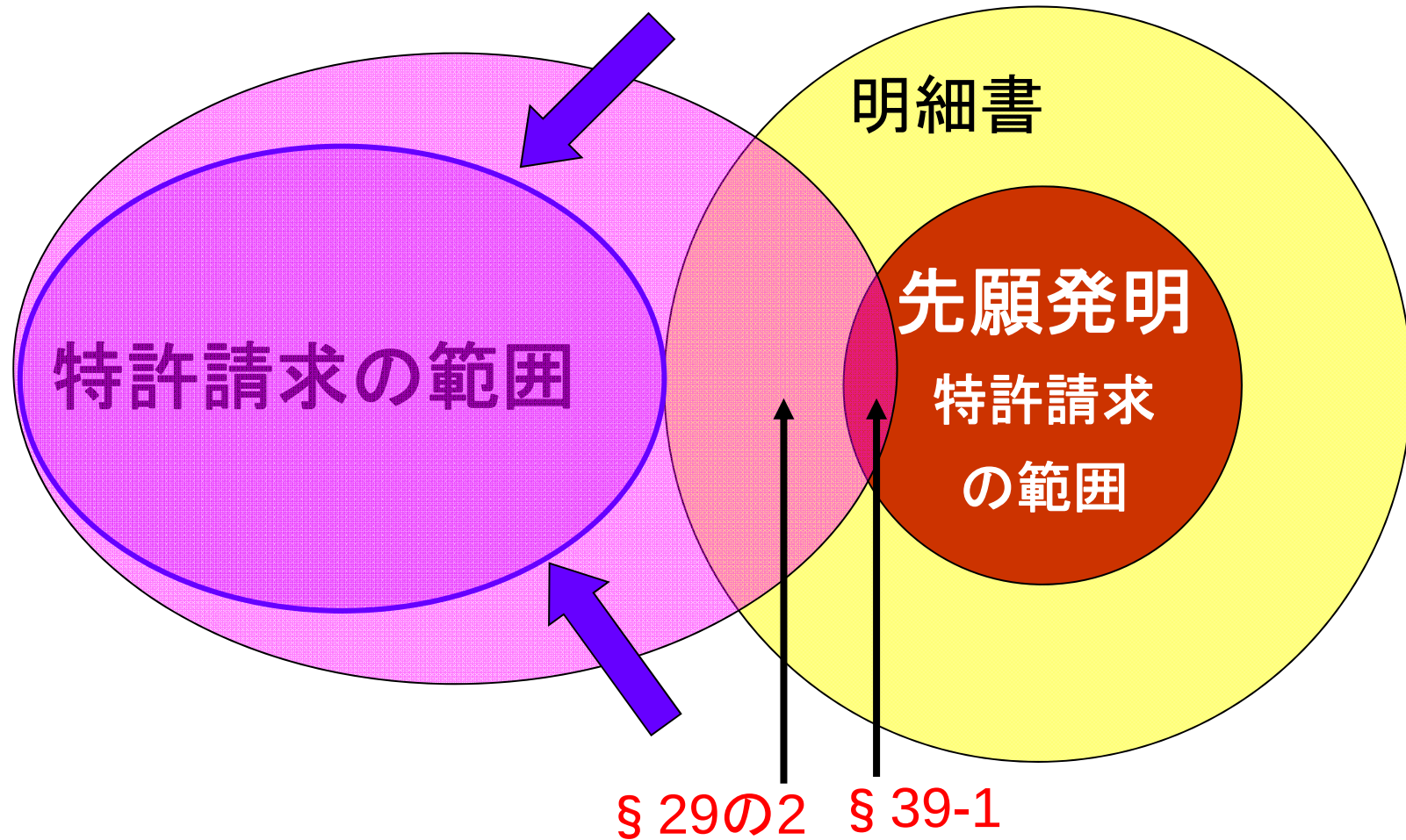
(出願人、発明者が先願と相違)



§ 29の2 違反



先願発明と特許請求の範囲



今日のポイント

1. 特許を受けられる発明
＝拒絶理由がない発明
2. 新規性と進歩性
自分の発表でも新規性を喪失する
3. 新規性喪失の例外
第3者の同一出願、発表に対抗できない
4. 先願主義